【資料2】

地方創生関係交付金事業実施計画
に掲げるKPIの達成状況等について

■ 地方創生推進交付金

【概要・目的】
　平成 28 年度からの地方版総合戦略の本格的な推進に向け、地方創生の深化のために創設された交付金である。

【対象事業】
　地方版総合戦略に位置付けられた、自主的・主体的で先導的な事業

【期待される効果】
　先駆的な取組等を後押しすることにより、地方における安定した雇用創出、地方への新しいひとの流れ、まちの活性化など、地方創生の深化の実現に寄与する。

【効果検証】
　総合戦略同様、事業実施に伴う効果について重要業績評価指標（KPI）を設定しており、その検証と事業の見直し等については、角田市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会において行う。

【交付金上の事業名称・事業期間】
①『Challenge Million 2016 道の駅からはじまる角田（まち）づくり事業』
　（平成28年度～平成 30 年度）
②『ニューツーリズムを核とした地域活性化プロジェクト』
　（令和元年度～令和3年度）

【②の事業費等】
　令和元年度　4,711 千円
　（財源内訳　交付金：2,355 千円、一般財源：2,356 千円）
　令和2年度　34,427 千円
　（財源内訳　交付金：17,213 千円、
　　企業版ふるさと納税寄附金：14,000 千円、一般財源：3,214 千円）
　令和3年度（当初予算）　15,320 千円
　（財源内訳　交付金：7,660 千円、一般財源：7,660 千円）

地方創生推進交付金事業（令和元年度～令和3年度）の概要

【事業の内容】

「道の駅かくだ」における賑わいを一時的かつ局所的なもので終わらせず、市内各所にその賑わいを循環させるため、次に掲げる「体験型かくだチャレンジ事業」及び「かくだ版スポーツツーリズム推進事業」に取り組む。

事業の実施にあたり、オープン後間もない道の駅の管理運営会社である『㈱まちづくり角田』が単独で新たな事業に着手することの難しさを考慮し、かつ、多角的な意見の集約を行った上で調査・研究を行い、より実効性のある事業を展開していくために、市民及び関係団体等で構成する『Challenge Million 市民会議』を創設し、体験型観光プログラム、かくだ版スポーツツーリズム等を構築するとともに、今後当該事業の実施主体となる『㈱まちづくり角田』に対し、事業の提案及びサポートを行う。

当該体験型観光プログラム等は、道の駅の賑わいの交流拠点としての機能を強化しつつ、かくだスポーツビレッジ（Kスポ）の利用者の増を図るだけでなく、市内に点在する観光地を結びつけ、地域経済の好循環を生み出すきっかけを創出するものであり、体験型観光プログラムの発着点を道の駅とすることで道の駅の利用者の増にも繋げていくものである。

1 体験型かくだチャレンジ推進事業

道の駅をプラットフォームとする地域資源をフル活用した体験型観光を推進するため、体験型観光に係る計画策定、体制整備、システム構築を行う。

(1) マーケティング調査、計画策定等
(2) 観光アドバイザー等の招聘
(3) 体験メニュー掘起し開発
(4) サイクルツーリズム用レンタサイクル導入
(5) 体験型イベント運営、プロモーション
(6) 観光周遊ルートの検討・策定
(7) 観光周遊ツアー（モニターツアー）の実施

2 かくだ版スポーツツーリズム推進事業

Kスポと道の駅が、スポーツを通じて健康、子育て、まちづくり等をテーマに連携することで、交流人口の拡大及び地域経済の活性化を目指す「かくだ版スポーツツーリズム」を推進するにあたり、道の駅を拠点とした連携事業を展開するとともに、地域資源の一体的なPRを実施する。

(1) 地域資源の一体的なPR（情報発信能力向上研修の実施、道の駅とスポーツ施設の地域資源コラボPRの実施）
(2) 健康づくり・賑わいの拠点化（ウォーキング拠点化イベントの開催、大会等の誘致、人材育成の支援）
(3) スポーツをテーマとした遊具を設置した幼児向けの遊び場の整備・道の駅と連携活用

〔令和元年度〕

●「Challenge Million 市民会議」が市からの負担金（4,711 千円）を財源に次の事業を実施した。

1.「Challenge Million 市民会議」運営（21 千円）

2.体験型観光システム構築事業（2,345 千円）

今後、道の駅をプラットフォーム化して実施する体験型観光のシステムを構築するため、調査・研究を行い、「かくだ体験型観光ツーリズム推進事業アクションプラン」を策定した。

3.観光需要ニーズ調査事業（399 千円）

市内の観光資源「JAXA、スペースタワーコウスモハウス、道の駅」と季節の催事「牟宇姫ひなまつり」等を組み合わせたモニターツアーの実施を予定していたが、令和元年東日本台風の影響及び新型コロナウイルス感染症対策により中止したため、参加予定だった親子に対し、観光需要、二次交通についてのアンケートのみ実施した。

4.かくだ版スポーツツーリズム推進体制・システム構築事業（1,946 千円）

道の駅とKスポの連携による賑わいの相乗効果を図り、かくだ版スポーツツーリズムのシステムを構築するため、道の駅とKスポの一体的な PR（チラシ作成・配布）、健康づくりの拠点化のためのウォーキング教室の開催、幼児連れ親子の遊び場の拠点化のための幼児向け運動教室の開催等を行った。

〔令和2年度〕

●「Challenge Million 市民会議」が市からの負担金（8,061 千円）を財源に次の事業を実施した。

1．「Challenge Million 市民会議」運営（51 千円）

2．体験型観光ツーリズムコンテンツ開発事業（3,418 千円）

地域資源の掘り起こしと整理、関係者ネットワークの構築を行い、体験験型観光のシステム構築に向けた基礎づくりを行った。

（1）専門家招聘

サイクルツーリズム、グリーンツーリズムの専門家に調査、指導・アドバイスを受けることで、体験型観光コンテンツの整理、イベント実施に向けた準備、体制整備を図った。

（2）体験型観光システムコーディネート

地域資源を活かした「体験＋昼食＋買い物」をセットにした体験型観光プログラムのモニタリングを行うため、仙台駅を発着点とするバスツアー（秘伝豆収穫体験、ねぎ収穫体験）を実施し、ツアーの商品化の調査・研究、体験型観光に係る実施体制の整備を図った。

▲秘伝豆もぎとり体験チラシ

（3）体験型観光メニュー開発

既存のイベントの実施主体及び道の駅と連携し、収穫体験イベント（秘伝豆もぎとり体験、ねぎまつり）を実施し、イベント自体の認知度の向上、参加者の増加を図った。

また、マイカーを所有する仙台圏の30～40代の子育て世代をターゲットに、道の駅を集合場所とする新たな体験メニュー（みそ作り＆冬野菜収穫体験モニター）をモニタリングしてもらい、実効性や魅力度の検証を行うとともに、実施体制の整備を図った。

▲ねぎまつりチラシ

3. 観光需要ニーズ調査事業（2,469 千円）

地域資源を活用した観光周遊ルートの構築のため、鉄道やバスと連携した周遊型観光モニターツアー、感染症対策を考慮したリモート観光ツアーを実施し、観光需要に関する調査・分析を行った。

（1）周遊型観光モニターツアー実施

イベント（ずんだまつり、ねぎまつり）開催時に、角田駅と道の駅、収穫体験会場を繋ぐシャトルバスを運行し、来場者のうち約 600 名に対し、観光需要及び二次交通に関するアンケート調査を実施した。

また、新型コロナウイルス感染症対策を考慮し、オンラインでのリモート観光ツアー（参加者に事前に送った角田産食材を使っての料理、市内観光施設の紹介動画の視聴等）を開催し、参加した39組に対し、観光需要に関するアンケート調査を実施した。

▲リモート観光ツアー第 1 弾
「クラフトビールと旬の食材が届く」の様子

▲リモート観光ツアー第 2 弾
「野田鴨を焼酎と味わう」の様子

さらに、観光周遊ルート構築のためのモデルコースの作成、商品化に向けて、市内の地域資源とイベントをバスで巡る周遊型観光モニターツアーを仙台圏の親子を対象として開催し、参加した8組に対し、観光需要に関するアンケート調査を実施した。

（2）調査・分析

観光周遊ルート構築に向けて実施したアンケート調査の分析、検証を行った。

▲周遊型観光モニターツアー
『「角田の魅力はべっかくだ～」ツアー』
参加者募集リーフレット

4. かくだ版スポーツツーリズム推進体制・システム構築事業（2,123 千円）

かくだ版スポーツツーリズム推進体制及びシステムを構築するため、健康づくり・賑わいの拠点化に向けて、スポーツに関する各種教室の開催、大会の誘致・開催、SNSの活用に関する人材育成研修会の開催等を行った。

（1）モデル事業構築のためのプレイベント・教室開催等

健康づくりの拠点化に向けて、日本市民スポーツ連盟認定のウォーキングステーション制度へのウォーキングコースの登録、ウォーキングマップの作成及び初心者向けの健康ウォーキング教室の開催により、ウォーキングコースの利用促進を図るとともに、今後のウォーキング事業を推進するスタッフ育成を目的として、「認定ウォーキング指導員」の資格取得のための研修会の開催及び市民の健康づくりを推進する「角田市ウォーキング協会」設立の支援によりウォーキングの普及に寄与した。

また、総合体育館で通常行っている健康スポーツ教室の無料体験会の開催やスポーツ施設利用者への道の駅で使える割引券の配布による新たな利用者層の掘り起こしを図った。

さらに、幼児の遊び場の拠点化に向けた親子運動あそび教室の開催なども行った。

（2）人材育成研修会等開催

Kスポ関係者を対象として、感染症対策を講じたスポーツ活動の再開のための研修会やSNS（Twitter、Facebook）の立ち上げから走り出しまでの伴走型の研修会を開催した。

●今後当該事業の実施主体となる『㈱まちづくり角田』に道の駅とKスポの連携PR事業を委託（2,298 千円）し、PRチラシの作成・配布を行った。

○ かくだ版スポーツツーリズム推進体制・システム構築事業（2,298 千円）

かくだ版スポーツツーリズムを推進するため、地元住民で賑わうKスポと道の駅を目指し、健康スポーツ、幼児向け遊び場等の情報を掲載した連携PRチラシの作成・配布を4回行った。

●かくだ版スポーツツーリズムを推進するため、幼児向け遊び場の拠点化に向けて、市が交通公園内に幼児向けの遊具及び築山を整備（24,068 千円）した。

○ 幼児向け遊び場整備（24,068 千円）

幼児向けの遊び場を整備し、道の駅とKスポが連携して活用・PRすることで、幼児向け遊び場の拠点として定着させ、かくだ版スポーツツーリズムを推進するため、交通公園内に幼児向けの遊具及び築山を整備した。

また、交通公園に愛称「どんぐりぱーく」を設定し、今後更なるPRを図る。

▲整備された遊具、築山

〔令和3年度（参考）〕

令和2年度までに構築した体験型観光システム及びかくだ版スポーツツーリズムのモデル事業を実施するとともに、モニターツアー実施の検証結果を踏まえ、観光周遊ルートを構築し、当該観光周遊ルートによる観光ツアーを実施し、今後の自走性についての検証を行う。（予算 15,320 千円）

1.「Challenge Million 市民会議」運営（120 千円）
2. 体験型観光イベント運営事業（4,300 千円）
3. 観光周遊ルート構築事業（5,000 千円）
4. かくだ版スポーツツーリズム推進事業（4,400 千円）
5. サイクルツーリズム環境整備事業（1,500 千円）

地方創生推進交付金事業評価シート

重要業績評価指標（KPI） No.	指標名	担当課	事業開始前	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度目標	達成状況 ○:達成 ↗:達成見込 ↘:要努力 ー:算定不能	担当課評価 現状分析	担当課評価 今後の取組（改善）
1	道の駅かくだ売上高	商工観光課	0 千円（平成30年度）	276,289 千円	187,276 千円	279,000 千円	↘	一昨年からの令和元年東日本台風災害によるKスポ利用者の減少、昨年からの新型コロナウイルス感染症拡大による外出自粛の影響で売り上げ及び来場者が減少している。	新型コロナウイルス感染症の終息が見通せない状況の中、イベントの開催が困難な状況にある。今後は状況を見極めながらKスポや観光イベントと連携を図り売り上げを伸ばす努力をしていく。
2	体験型観光メニュー利用者数	商工観光課／まちづくり政策課／生涯学習課	0 人（平成30年度）	148 人	1,515 人	1,940 人	↗	①令和2年度のグリーンツーリズムは以下の通り実施した。全てのモニターツアーに多くの参加があった。また、参加者にモニターツアーに関するアンケート調査を行い、角田市の観光に対する意見が確認できた。 ・ねぎ収穫体験　650名 ・秘伝豆もぎとり体験　50名 ・ねぎ収穫体験モニターツアー　20名 ・秘伝豆収穫体験モニターツアー　15名 ・みそ作り、冬野菜収穫体験モニターツアー　30名 ②Kスポと道の駅かくだが連携したスポーツ体験型事業を以下の通り実施した。 ・ウォーキングステーション活用事業　2回77名 ・Kスポ健康ウォーキングコース体験教室　10回201名 ・Kスポ体験事業　団体対象　4回46名 個人対象　6回144名 ・親子運動あそび教室　12回177名 ③周遊型、オンライン型のモニターツアーについて、以下の通り実施した。 ・阿武隈急行線利用促進ツアー「お絵描きトレイン&体験乗車会」 40名 ・オンラインリモート観光ツアー「クラフトビールと旬の食材が届く」 24名 ・オンラインリモート観光ツアー「野田鴨と焼酎を味わう」 21名 ・周遊型観光モニターツアー「角田の魅力はべっかくだ～」 20名	①令和2年度に行った事業を踏まえて、道の駅かくだを拠点としたグリーンツーリズム、サイクルツーリズムの体験型観光事業を開発、実施していく。また、体験型観光を広く知ってもらうための情報発信事業を実施していく。 ②スポーツ体験型事業は、新型コロナウイルス感染症対策を十分に講じながら、事業の継続を図っていく。 ③周遊型観光モニターツアーは、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、実施検証を道の駅に委託しすすめていく。
3	かくだスポーツビレッジ利用者数	生涯学習課	261,014 人（平成30年度）	209,689 人	119,066 人	285,000 人	↘	新型コロナウイルス感染症対策のため、5月まで施設を閉鎖し、その後利用制限を行ってきたため、各施設とも前年度より大幅に利用者数が減少した。また、スポーツ交流館や総合体育館武道場などでは、換気設備の工事を実施したため、工事期間中施設が一部使用できなかった。 【令和2年度実績内訳】（前年比▲90,623人） ・総合体育館 21,420人（▲27,459人） ・温水プール 48,098人（▲29,405人） ・陸上競技場 7,171人（▲13,074人） ・野球場 3,322人（▲4,083人） ・多目的運動場 1,697人（▲3,543人） ・多目的芝生広場 5,080人（▲1,704人） ・テニスコート 12,272人（▲1,308人） ・ゲートボール場　0人（▲243人） ・交通公園自転車 13,989人（▲3,178人） ・スポーツ交流館 6,017人（▲6,626人）	新型コロナウイルス感染症の終息後、施設の使用制限の解除、各種事業の全面再開、スポーツ団体活動の活性化を促し、2年前の水準を目指す。

【参考】

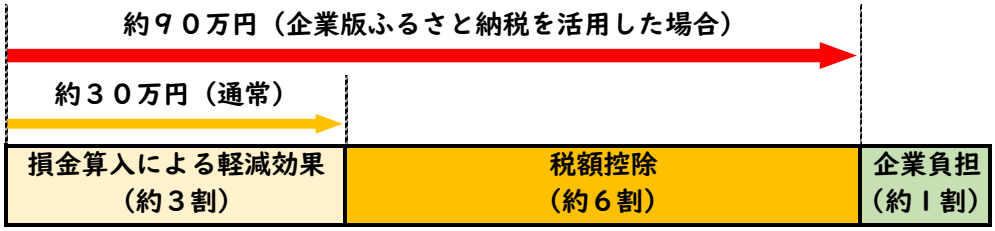
■ 企業版ふるさと納税

●企業版ふるさと納税（地方創生応援税制）とは

企業版ふるさと納税は、国が認定した地方公共団体の地方創生プロジェクトに対して企業が寄附を行った場合に、法人関係税から税額控除する仕組みである。

さらに、令和 2 年度より、地方創生の更なる充実・強化に向けて、地方への資金の流れを飛躍的に高める観点から、制度が大幅に見直された。これにより、損金算入による軽減効果（寄附額の約 3 割）と合わせて、最大で寄附額の約 9 割が軽減され、実質的な企業の負担が約 1 割まで圧縮されるなど、より使いやすい仕組みとなった。

例えば、企業が 100 万円を寄附した場合、損金算入措置により、寄附額の約 3 割（約 30 万円）の税の軽減効果がある。企業版ふるさと納税を活用した場合は、さらに寄附額の約 6 割（約 60 万円）が税額控除され、通常の 3 倍の約 90 万円の税の軽減効果がある。



●令和 2 年度寄附実績

〇寄附対象事業

地方創生推進事業 ～ニューツーリズムを核とした地域活性化プロジェクト～

〇寄附をいただいた企業（寄附受け入れ順）

企業名	本社所在地
山和建設 株式会社	山形県西置賜郡小国町
株式会社 古川製作所	群馬県太田市
株式会社 大安工業所	神奈川県川崎市

【令和３年度 角田市企業版ふるさと納税 寄附対象事業】

■地方創生推進事業～ニューツーリズムを核とした地域活性化プロジェクト～

目標 1,800 万円

○地方創生推進事業

「道の駅かくだ」の賑わいを市内各所に波及させるため、収穫体験を主としたグリーンツーリズムやレンタサイクルを整備してのサイクルツーリズムの推進、市内の地域資源を結ぶ観光周遊ルートの構築など、体験型観光のシステムを構築するとともに、道の駅とその周辺のスポーツ施設が連携してスポーツツーリズムを推進することで、地域経済の好循環を生み出すきっかけを創出する。

○陸上競技場改修事業（第3種公認競技場）

傷んだ走路を改修し、ルール改正に伴う設備、備品をそろえることで、日本陸連の第3種公認を更新し、特に地元の小・中・高校生に陸上競技を安全に行う環境を整えることで、子どものスポーツ振興を図る。

■防災・減災対策事業～令和元年東日本台風を教訓とした防災・減災対策～

目標 6,600 万円

○駅前花島線整備事業

令和元年東日本台風の大雨により、尾袋川から左関地区へ越水し、同地区で甚大な家屋浸水被害が生じたため、越水対策及び避難路確保を目的とした止水壁の設置を行う。〔事業スケジュール〕R2年度：測量設計、R3年度：止水壁工事

○大沼野田前線整備事業

市道大沼西堤防線を越水した洪水は、大沼地区の水田地帯に流入し、その後市街地へ流入し甚大な被害をもたらしたため、現在施工中の住社橋（小田川）から谷地町地区に向けて、大沼野田前線の延伸を行い、二線堤として機能させ、また野田地区住民の避難路としての整備を行う。〔事業スケジュール〕R3年度：測量調査設計、R4年度：盛土工事

○南町斗蔵線整備事業

令和元年東日本台風の大雨により、南町斗蔵線の路面の低い区間で冠水し、通行ができなくなったため、大雨時の道路冠水を防止し、緊急輸送路及び避難路確保を目的とした、道路をかさ上げする改良工事を行う。〔事業スケジュール〕R3年度：測量設計・用地補償、R4年度：盛土工事

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

3 すべての人に健康と福祉を

8 働きがいも経済成長も

11 住み続けられるまちづくりを

17 パートナーシップで目標を達成しよう